

令和7年度普及活動外部評価委員会

開催日： 令和8年1月23日(金)

評価課題 由利： 由利地域農業の持続的な発展を支える多様な担い手の確保・育成
 仙北： 産地の中核となる大規模経営体の育成
 平鹿： 産地維持を見据えた新規就農者の確保・育成
 雄勝： 集落型農業法人・集落営農組織等の育成と連携強化

評価項目		由利	仙北	平鹿	雄勝
1 計画作成の背景と推進体制	平均 点数	3.8	3.8	4.0	3.6
2 推進事項	平均 点数	3.6	3.4	3.2	3.4
3 普及活動の手段、手法	平均 点数	4.2	4.0	3.8	3.2
4 普及活動の実績	平均 点数	3.8	3.4	3.6	3.6
委員からの主なコメント		・広域法人の設立や連携体制の構築を高く評価する一方、新規法人の継続支援や、普及活動がもたらした寄与度の明確化が必要である。 ・高校生への啓発活動やインターンシップを継続し、就農者が「楽しみ」と「収入」の両面で農業の魅力を実感できる体制を構築すべきである。 ・離農要因の究明や現場評価の可視化を行い、課題の本質を捉え直した上で、普及活動に直結する目標設定を行うことが求められる。	・大規模経営の収益向上など、目標設定の方向性は適切。収益確保に向けた販路開拓や品目選定の指導を求める。 ・関係機関との連携や作業効率化の支援は評価できるが、具体的な「推進体制」の説明が求められる。 ・深刻な人手不足を見据え、単なる売上増ではなく、利益率を高めて「労務賃金」を向上させるべきであり、10年後を見据えた長期的な人員確保の検証が不可欠である。	・人数や面積の確保だけでなく、農業者の売上増や経営力(財務諸表の理解など)の育成、消費者のニーズを捉えた多様な農業形態への支援が求められる。 ・指標と活動の因果関係を明確にし、具体的な課題解決に向けた指導体制の充実や、生産者同士のマッチング、成功事例の共有を強化すべき。	・画一的な法人化や無理な組織づくりは、支援終了後の解散リスクを伴うため、地域の土地や人に即した支援を行い、社会保険や就業規則などの社会的責任への認識を高めることが必要である。 ・各活動が課題解決にどう寄与したかを具体的に示す必要がある。 ・関係機関との連携をさらに深め、実需者も含めて各法形態のメリット・デメリットを共有した上で法人設立支援を進めべきである。

※点数は委員5名の平均値